

市民俳歌柳壇

毎月20日で締め切り、締め切り日
の翌々の広報うつのみやで入選
作品を発表します。

特選

ふるさと
故郷の母校を抜けて墓参り

針ヶ谷1丁目 糟屋 宮子

●特選の選評 学生時代に重い鞆を下げて通った学校。今、その道を通り過ぎて、盃蘭盆の花束と墓参一式を携えて墓地へと続く道を行く。「墓参り」が秋の季語（8月13日は迎え盆。私も朝から盆棚を造り、夫を迎えにお寺へと出掛けた。お墓の前で「お父さん、お盆のお迎えに来ましたよ。」と手を合わせ、桶一杯の水で墓を清め、迎提灯を焚き、そっと自宅へ持ち帰った。

俳句



加茂都紀女先生

入選

公園はフォルテイシモ(FF)の蟬時雨

西2丁目 佐藤 順子

丹精の重さたつぷり今年米

幸町 渡邊 公之

子どもらに負けじと父の水鉄砲

さつき3丁目 伊藤 幸子

告白は吊橋の上雲の峰

横山2丁目 小野 則雄

特選

神さまは不思議なカタチ創ります
コノテガシワも歪なココロも

西原2丁目 久保川 賢一

●特選の選評 作者は神様を信じている。神は、原因、理由の分からない形、つまり物体、万物を創り出す。上の句は、神への尊敬なる言葉にて締める。庭木の「コノテガシワ」(兎手柏)と、「歪なカタチ」と、人の心の形にも迫る。カタカナの多用は、平易な柔らかさをも感じさせる。しかし、神髄、真髄をも感じさせる重厚なる一首となった。

短歌



安野登美子先生

入選

咲き盛る薔薇は昨夜の雨含み
熟睡のごと重く垂れある

下栗町 田中 洋子

朝の目を吸ひ込むやうに向日葵は
色彩やかに空を見上げり

下田原町 和田 文男

見上げると夜空にのぼる花火がね
はじけて消えるあつという間に

横川中学校 上田 心彩

倒木の上に新しい芽が吹きぬ
倒れて尚も命育む

緑2丁目 片嶋 青水

特選

沸湯の夏に向日葵たじろがず

新里町乙 小池 貞雄

●特選の選評 体温を上回る36度以上の暑さが連日続いている。そんな猛暑の中、向日葵は太陽へ真っ直ぐ向い、凜として身動きひとつしない。人間も暑さへの愚痴ばかり言わず温暖化対策をせねばならない。

川柳



佐藤隆久先生

入選

ゆらゆらと脂肪も踊る宮まつり

東増田2丁目 渡辺 眞左

かつ一枚買うのに悩む皮下脂肪

中戸祭1丁目 阿部 壽美江

炎天下己の影に隠れたい

若松原1丁目 菊地 巳代吉

空耳が故郷へきそう盆太鼓

鶴田町 西宮 久

俳歌柳壇の応募方法

- 1人各3句(首)以内。俳句・短歌・川柳の併記は不可。
- 対象は市内在住者で、未発表作品。年齢問わず応募できます。
- はがき表面=住所・氏名・ふりがな・応募する壇名。
- はがき裏面=作品(漢字にはふりがなも)・作品への思い。
- 毎月20日までに、〒320-8540市役所広報広聴課☎(632)2028へ。
- WEBによる応募も受け付けます。詳しくは、市☎をご覧ください。

ID 1022877



▲市☎

表

〒320-8540
住所・氏名・壇名
ふりがな
宇都宮市役所
広報広聴課

裏

作品への思い
作品への思い
作品への思い